

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス もも		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 3 月 24 日		～ 令和 8 年 4 月 24 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和 8 年 5 月 1 日		～ 令和 8 年 5 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 5 月 30 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別ニーズへの対応と保護者からの信頼 子どもの特性に応じた専門的な支援が行われており、保護者からも「丁寧な説明で安心できる」「いつも感謝している」といった高い評価を得ている。	視覚支援と構造化 ホワイトボード等を用いた視覚的な支援を行い、子どもにとって分かりやすい環境づくりに努めている。	標準化された評価の導入 現在インフォーマルな観察が中心であるため、標準化された評価ツールの選定と、それを用いたアセスメント手法の統一を目指している。
2	アットホームで魅力的な通所環境 子どもたちが楽しみながら通所しており、中には休日に通所がないことを残念がる子どもがいるほど、安心感と楽しさのある環境が構築されている。	チームによるプログラム立案 ネットや書籍、子どもの状況を参考に、スタッフ全員で飽きがないよう工夫したプログラムを検討している。	記録の効率化とルールの徹底 支援後の振り返りや共有をより確実にするため、時間がない場合でも記録シートを活用するなどのルール作りを進めている。
3	積極的な保護者交流 療育参観や親子ピクニック等の開催の際、保護者同士の交流場を設けており、保護者が互いに支え合い、子育てに向き合う意欲を高める場として機能している。	密な連携と情報共有 朝礼や会議を通じた職員間の情報共有を徹底しており、保護者に対しても活動の様子を写真付きで報告するなど、丁寧なコミュニケーションを行っている。	地域交流の拡充 小規模な行事から地域開放を検討するなど、地域との繋がりを深めるための計画的な取り組みを予定している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境改善の制約 物理的な改修がすぐには難しいため、代替的な動線確保やユニバーサルデザインの配慮が必要となっている。	物理的・時間的なリソース 設備の即時改修が困難であることや、日々の支援業務の中で、研修参加や外部交流のための時間を組織的に確保する必要がある点。	組織的な対応体制の構築 研修への参加を業務として位置づけ、担当者を決めて計画的に参画する体制を作る。
2	地域・外部との連携 外部研修への参加や、地域の支援センター等の連携先リスト作成など、組織的なネットワーク作りと情報発信が今後の課題である。	手順の標準化 担当者によって対応のばらつきが出ないよう、テンプレートの作成や保管場所のルール化（食物アレルギー対応等）が必要であると認識している。	安全管理の徹底 アレルギー対応の指示書保管場所の再確認や、保護者会を通じた安全目標の共有を強化する。
3	専門的な家族支援のニーズ ペアレント・トレーニング等の専門的な支援や情報提供について、実施体制の整備が求められている。	専門家との連携 外部の専門家を招いた研修の実施を検討しており、スタッフの専門性向上と家族支援体制の強化を図る必要があると考えている。	引き継ぎ・連携システムの整備 卒業時の情報提供テンプレートの作成や、連携先リストの整備により、誰が対応しても同様の支援ができる仕組みづくりを進める。